



コロナ禍で女性がおかれている状況について

正井 禮子

(認定NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ代表)

新型コロナがシングルマザーを直撃している。「一日一食」「4月、5月の収入ゼロ」との報告もある。「ウィメンズネットこうべ」は、普段からDV被害女性の支援とともに、シングルマザーの生活再建を支援しており、DV被害女性や困難を抱えるシングルマザーと子どもの居場所「WACCA(わかか)」の運営や、「フードバンク関西」と協働で、月1回、母子家庭への食糧支援等もしている。学校が休校になったあたりから、「就職の内定が取り消しになり、子ども4人いて、食べ物に困っている」「子どもが就学援助を受けており、休校で昼食代に困っている。お米だけでも欲しい」等の相談が相次いでいる。日本の子どもの貧困率14%が問題になったが、母子家庭の貧困率は平時でさえ50%を超え、先進国で突出しており、新型コロナウイルスの感染拡大の影響でより深刻な状況に陥っている。シングルマザーの8割は働いており、これは先進国でトップクラス。しかし、48%がパートやアルバイトといった非正規雇用であり、平均年間収入は243万円、4割は貯蓄がない。養育費を受け取っているのはたった24%。ウィメンズでは5月から「WACCA-エール便」として食糧やお菓子を箱につめ、支援を求める母子家庭に送っている。6月から新規事業として、一人親の居場所「WACCA ㊦(ふらっと)」を開設し、フードパントリー(*)を設置、食糧の配布や生活相談等も始めた。

マスコミ関係者から「DV被害は増えていますか？」との問い合わせが多い。確かに海外のシェルター関係者と話をすると、新型コロナの影響でDV被害が増加し、多くの女性が家を出ているという。しかし、日本の状況は少し異なる。確かにDV被害は増加していると推測されるが、家を出る女性は増えているのだろうか。平時でも日本のDV被害女性の1割しか家を出ていない。理由は65%が子どものため、45%は経済的見通しが立たないから。子どものためという理由も、子どもが貧困に陥ること、十分な教育を受けさせてやれない等、やはり経済的理由が大きい。海外の調査によれば、住居や経済的保障などの支援がなければ、災害時は多くの人々が家や仕事を失ったり社会全

体の経済状況が悪化するため、平時よりひどい暴力を受けたとしても、女性たちは生活の不安からDV家庭に留まる傾向が強いとのことである。日本の今の状況も同様ではないかと思う。

当団体は、昨年8月から居住支援法人の資格を取り、シングルマザーやDV被害女性を対象に居住

支援を始めた。DV被害から逃れるには、安全な住居の確保が不可欠である。しかし、所持金が少ない上に、保証人もなく緊急連絡先さえ持たない女性や母子が住居を取得することは非常に困難である。一緒に不動産屋巡りや、時には生活保護申請に役所の窓口にも同行している。代理納付を約束することでようやく家主さんを説得し、住宅取得に至ることも少なくない。事業を通して、女性が家を取得することの困難さを実感した。

イギリスでは、1994年当時から、DV被害女性に対して、住居と経済的支援とカウンセリングを提供することが各自治体の責務とされている。今後、各地で災害が増加することが予測される中、このような施策が日本でも欲しいと強く願っている。

*フードパントリー

ひとり親家庭や生活困窮者など生活に困っている人を対象に、食品を無料で配布する事業

プロフィール

1992年に、男女平等社会の実現に向けて、ウィメンズネット・こうべを発足。阪神大震災を契機に、DV被害者の支援を行い民間シェルターを開設。その後の居場所—WACCAを運営。デートDV防止出前授業にも取り組む。





日本で夢をかなえたい！

「子ども日本語トータルサポートプログラム」をご支援ください



子ども日本語トータルサポートプログラムについて、福井武司講師に聞きました。

Q 子ども日本語トータルサポート募金について、簡単に説明していただけますか。

A ここでいう子どもというのは、両親またはそのどちらか一方が外国出身者の子どものことです。親のいろいろな都合で日本へやって来た子どもたちは、日本語がわからないまま日本の小中学校に通い始めます。やがて子どもたちは高校進学という壁を乗り越えなければなりません。神戸YWCAではその子どもたちを来日直後から、日本社会を支える一員として社会人となっていくまで、トータル的にサポートしてあげたいと考え、この募金を創設しました。

Q 具体的にどんなプログラムや活動があるのでしょうか。

A 最初のステップは、来日直後の子どもたちに基礎的な日本語の力を身につけてもらうため、夏休み期間中に「勉強に役立つ日本語」というクラスを実施しています。次のステップとして、毎週土曜日の「はっぴー・さぼーと」というプログラムの中で、学校での勉強についていけるよう教科指導をしています。また、第2土曜日の「はっぴー・すくーる」では、いろいろなイベントや進路相談などを行っています。この2つを通して、神戸YWCAが安心して自己表現のできる居場所としても機能すればと思っています。

Q サポートに関わってくださっているのは、どのような方ですか。

A 神戸YWCA学院の日本語講師が日本語指導をしているほか、教科指導では教員の免許資格を持った方や、日本語ボランティア養成講座を修了した方にご協力いただいています。それぞれの持ち場で特徴を生かしてくださっているといつも感謝しています。

Q 今年度のプログラムは、どんなことを計画していますか。

A 新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で、夏休みの「勉強に役立つ日本語」を実施するべき



福井武司さんプロフィール：

神戸YWCA学院日本語コース・日本語教師養成コース主任講師。1969年生まれ。神戸YWCA学院専門学校日本語教師養成学科専門コース1995年修了。神戸YWCA学院、関西学院大学、関西国際大学、海外産業人材育成協会、「グループ四次元ポケット」ほかで、広く日本語教育と日本語教師の養成にあたる。趣味はギター演奏。

「はっぴー・すくーる」「はっぴー・さぼーと」プログラム参加者の声

🍀 陳強 さん (現大阪大学工学部応用自然科学科1年生)

来日して小学校の6年生に編入した。夏の勉強のための日本語に参加し、その後、「はっぴー・さぼーと」に参加するようになった。行ったら楽しいところだった。印象に残っているのは、科目学習だった。すでに中国で学習していた内容を日本語で学習したので、日本語を逆に類推できた。高校生になってからは、ベッキさん(比)やチョウさん(台湾)と出会って、興味深い話ができた。また、進学を考えたときに先輩の話が聞いて良かった。

🍀 カンデル・ギタ さん

(現芦屋学園高等学校国際文化科3年生)

来日して舞鶴で小学校に編入し、その1年半後、小学校5年生の時に神戸に転居した。ひらがな、カタカナ、漢字、会話すべてができたが、学校の勉強にはついていけていなかった。「勉強に役立つ日本語」での勉強は、わかりやすかった。「はっぴー・さぼーと」では、宿題や課題を手伝ってもらえた。「はっぴー・すくーる」では、友達ができた。いろいろな人と出会えてよかった。先生もやさしかった。

あの不思議な光景を見届けよう



か悩みました。何度かミーティングを持つ中で、1人でも支援が必要な子どもがいれば支援を届けることが神戸YWCAに課された使命だと考えるに至り、今年は新たな試みとして「オンライン」でプログラムを実施することにしました。そうすることで、子どもたちが公共交通機関を使ってYWCAまで来ることがなくなり、安心して日本語の勉強に集中できると思っています。このプログラムは皆さんの寄付によって支えられており、いつも感謝しています。今年度も新たな試みをしていきます。皆さまのご理解とご寄付をよろしくお願いいたします。

子ども日本語トータルサポート募金

目標額：200万円

募集期間：～2020年9月30日

●郵便振替 01100-0-10298

公益財団法人神戸YWCA

振替用紙の通信欄に「子ども日本語」とご明記ください。

●クレジットカード（オンライン決済）

右のQRコードを読み取り、アクセスしてください。



神戸YWCAへのご寄付は税額控除の対象になります。詳しくは事務局へお問い合わせください。

コロナ禍において、全国の人たちが大打撃を受けている。神戸YWCAも苦しい財政状況に陥っている。そんな私たちの緊急募金のお願いに対して、多くの方々がすぐに寄付を届けてくださった。皆が苦しい中でなお、神戸YWCAに期待してくださった、一人ひとりの熱い思いに応えたい。

今年は100周年イヤー。華やかとは言わないまでも、皆が元気になるような年にしたかった。しかし聖書にも書いてある。「自分の悟りに頼るな」と。思い

がけないことが起きたかのように感うのではなく、そんな中でも共に労する、愛する人たちがいることに目一杯感謝しつつ歩みたい。

さて、9月5日（土）に運営委員会主催で、会員活動が取り組むテーマを考えるワークショップを行う。こんな時だからこそ、私たちはいろいろなことを考えたはず。今の社会で何が求められているのか、皆で集まって話しませんか。チラシ参照！ぜひ参加を！

（総幹事・西本 玲子）

❖ わいわいデイルーム

思いもかけぬことが起こった。新型コロナウイルスの影響で「わいわいデイルーム」が休止になった時は、こんなに長引くとは思ってもみなかった。休止直前に利用者さんが2人増えて計8人。ほとんどが一人暮らしで、ステイホームの毎日に皆さんがどんな思いでおられるか、スタッフ一同心配になった。神戸市からの要請もあり、週一度の電話での安否確認、フレイル（*）予防のための散歩や運動のお願い。月に一度の訪問では、脳トレプリントやボランティアスタッフの手づくりの脳トレキットをお渡しし、お元気そうな顔を見るとほっとした。また、YWCAの会員さんの手づくりマスクをお渡しすると、とても喜んでくださった。

感染予防対策を万全に考え、6月23日（火）4カ月ぶりにデイルームが再開の日を迎えた。こちらの心配



をよそに、全員お元気で分室に集まり、2時間のプログラムを楽しく過ごされた。もとおりのデイルームに戻るのはまだ先のことと思うが、スタッフも含め、利用者さんの笑いの絶えない居場所になるよう、頑張っていきたい。（新井 育子）

*フレイル（虚弱）：年齢を重ねるとともに心と体の活力が衰えた状態をいう。健康な状態と介護が必要な状態の中間の段階にあたり、健康な人よりも要介護になるリスクが高いといわれる。



この自粛生活
で人と会えない
こと＝物事の停滞

の図式を打破するため、ミコやリモートへ急速かつ強制的な切り替えが行われました。

そんな中で先日地域福祉部のミーティングでは、わいわいデイルーム担当の方が利用者さんとお話をされたと聞きました。少しでも対話のあった方にとって、その後の充実感強いものとなったのではないのでしょうか。

かく言う私は、友人とメッセージのやり取りだけで対話はできませんでした。一人になれる時間と空間を皆が同じタイミングで作ることが想像以上に難しかったのです。

オンライン化は別の大切なものへ時間を割くための効率化ツールだと思っています。そしてウイルスからお互いを守るための対策です。しかし最適ではありません。

他人事でなくなった転換の中で、今まで神戸YWCAでしてきた丁寧なことは贅沢ですが心を満たす最も効率の良いことと再認識する期間になりました。

今は双方のバランスのよい所を探し出すことが急務と感じています。

（木村 文子）

神戸YWCA 本館：神戸市中央区二宮町 1-12-10 tel. 078-231-6201

神戸YWCA 分室：神戸市中央区坂口通 5-2-16 tel. 078-221-5111

*新型コロナウイルスの影響により、予定が変更されることがあります。

● カフェもぐもぐ 分室

若年性認知症の人と仲間たちのカフェ。
8月1日(土)、9月5日(土) 10時30分～15時
参加費 300円(食事代400円)
*昼食はみんなで作って食べます(要予約)。

● ときどき木曜カフェ 分室

8月6日(木)、8月27日(木)
13時30分～16時 マルシェとカフェ♪

● 夜回り準備会ボランティア募集 分室 その他

毎月第2・4土曜日の18～21時頃
一緒に活動して下さるメンバーを急募。
電話(078-221-5111)・メール(yomawari@kobe.ywca.or.jp)でお問い合わせください。

第2回
神戸YWCA100年思いをつなぐ会

シニア会員の方々に体験を語っていただく会を開催いたします。第2回は佐伯かをるさんと中尾廣美さんです。ぜひご参加ください。

日時：2020年9月26日(土)
14:00～15:30

場所：神戸YWCA会館5階 定員：先着20人

お話：わたしとYWCA 参加費：300円

準備の都合上9月24日までに申し込みください。

新型コロナウイルスの影響により、2020年度の本館バザーは中止いたします。

■ 学院だより

文化教養コースでは、月に一度の「発声&歌唱教室」がコロナ禍により開講できなくなりました。7月からプライベートレッスンに切り替え希望の回数で開講している。歌に加え、本館のグランドピアノを使ったピアノレッスンも月曜日に開講中。ぜひお問い合わせください。

(秋月 啓子)

■ まごの手だより

6月17日(土)、「感染症対策について」というテーマで、まごの手ヘルパーで看護師の小野美津江さんを講師に、ヘルパー研修会を開催した。久しぶりの集合研修は、「密」を避けるために3回にわけて実施し、ヘルパーが新型コロナウイルス感染を予防するための実践方法を学んだ。

(所長・寺内 真子)

■ 運営委員会報告

6月(オンライン)
【報告】▶日本YWCA(中央委員会、LA2) ▶つながるメール等広報関連▶各部・グループ活動状況▶理事会【研修】公益財団法人神戸YWCAの組織図【議事】▶会員組織づくりワークショップ

7月(オンライン)
【報告】▶日本YWCA会則変更の件▶LA2ミーティング▶各部・グループ活動状況▶評議員会開催【研修】部・グループ・プロジェクトとは何か【議事】▶会員組織づくりワークショップ▶LA2各チームの取り組み
(書記・福田 百)

■ 評議員会報告

6月20日(土)第10回定時評議員会開催。出席評議員数9人。2019年度事業報告がなされ、2019年度決算を承認。

■ 保育園だより

新しいお友だちを迎え、定員の12人になりました。0歳児は大きな声でみんなを呼びます。すると、保育士より早く(!)、2歳児のお姉さんが駆けつけます。雨ばかりの毎日ですが、保育園のリビングでは、きょうだいのように揉めたり、笑ったりが繰り広げられています。

(園長・梅川 玲子)

■ 分室だより

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、休止を余儀なくされていたグループが、少しずつ再開ははじめています。でも、食事を伴う活動はまだ自粛中。コロナ禍の中ですが、地域の人々が出会える場を大切に思い、工夫をこらして活動しています。

(塩見 洋子)

クレジットカードで
かんたん決済

神戸YWCAのホームページで、クレジットカード決済ができるようになりました。

寄付・賛助費・会費・会友費
にご利用いただけます。

右のQRコードを読み取り、アクセスしてください。



夏季休館日

8月11日(火)～15日(土)

*まごの手・保育園を除く

2020年度事業計画と予算を報告した。また、評議員の選任がなされた。今回、柴田富士子さんが退任し、川島恵美さん(関西学院大学人間福祉学部社会福祉学科准教授)が新任した。

(再任) 島田恒、下村俊子、関本雅子、鶴崎祥子、寺澤京子、馬場一郎、藤野達也、松浦裕子
(新任) 川島恵美
(退任) 柴田富士子
(総幹事・西本 玲子)

■ 理事会報告

7月18日(土)第1回理事会開催。出席理事7人、出席監事2人。補正予算の件、財政検討委員会の件、100周年記念式典の件が協議承認された。その他、総合サポートセンター構想の進捗、職務執行状況報告がなされた。
(総幹事・西本 玲子)

■ 賛助員

井上 早苗 井上 力
加納 花枝 須見 恭子
(敬称略)

■ 編集後記

朝からワシャワシャとクマゼミの鳴き声。夏まっさかり。コロナはどうなるー? (S・I)

熊本YWCAへ豪雨災害支援物資を送りました

熊本YWCAからの第一報に回答し、神戸YWCAでも緊急支援物資を募り、7月13日(月)に発送しました。神戸YWCAだけでなく、他団体の方々も支援の呼びかけをバトンして下さったことで、全部で17箱のダンボールを送ることができました。ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございます!



ホームヘルパー募集

誰もが地域の中で自分らしい暮らしをおくるために、担い手となって働きませんか。

◆ ホームヘルパー

常勤 月給198,100円～
パート 時給1,100～1,200円
登録型 時給1,000～1,400円

*担当・寺内までお問い合わせください。

◆ 生活支援訪問
サービス従業者 900円/回

神戸YWCA
まごの手

☎ 078-231-3156



シャマイム

担当者 佐野 睦 (日本基督教団 甲東教会会員)



0120-41-1059 (24時間受付)

宗教を問わずあらゆるお葬儀をプロデュースさせていただきます

西宮市段上町2丁目13-2

URL: http://sanosousai.com